京城新報

人の一生は重き負をおふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

明治四十四年八月十六日（水曜日）
東京市京橋區南佐柄木町七番地　東京支局
仁川　支局
發行所　京城新報社

●東京たより

◎國防上最少限度の擴張案として、海軍當局者は、最近に於て少なくとも戰艦八隻、裝甲巡洋艦八隻、二等巡洋艦八隻即ち計二十四隻の建造を主張し居る由にて、其經費總額は都合四億を要す見込との事に候、尤も右は無論同一年度內に完成せむとするに非ず、既往の計畫により六ヶ年間の繼續事業とするか、又は六ヶ年の完成を困難なりとせば、假すに尙四ヶ年を以てし、十ヶ年間の事業とせんとの考案もある由に候へば、其每年度の經費割當額は六ヶ年計畫に於て約六千六百万圓、十ヶ年計畫とすれば四千萬圓の算當に候。

◎世界の大勢及び列國の海軍擴張の計畫に鑑みるときは、島帝國としての日本の地位は、今日の海軍の情況に晏然たる能はざるは云ふ迄もなき事にして進んで軍艦の增設並びに之に伴ふべき諸般の設備を要せざる可からざるもの、何どいつても先だつものは、經費也、金錢なり、日本の國力は果して斯かる計畫に必要なる經費の支辨に堪へ得べきや否やが先決の問題に有之候、若し國力に伴はざる無謀の計畫を敢して、强いて軍艦を製造せんか、軍艦の出來上る頃には、國家は破產せざるを得ず、破產の危險を冒して迄も軍艦を製造せざる可からざるやと、問ふ者あらば、恐らく海軍擴張論者と雖も答辨に躊躇するを免れざるべく候。

◎僅か四億の金位で破產などゝは至極臆病なる申分に似たれど、海軍既に擴張の計畫ある以上は、陸軍側が默つて指を咬へて居やう筈もなし、必らず大聲疾呼して陸軍の充實を唱ふべく、而して威重なき政府は此方へも面を立てゝやらねばならぬ羽目と成るべきは必然なれば、海軍擴張は又陸軍の擴張を喚起するものたるを覺悟せざる可からず候、斯くて左なきだに國債二十幾億を擁へる國家、並びに租稅の重荷に苦める國民が如何にして、陸海兩軍の多大なる擴張に要する經費の要求に應じ得べきや、是れ頗る覩易き道理に候。

◎日本の國防が今日の現狀を以て甘むず可からざることは、予輩と雖も看取するに難からざる所に有之、唯當局者が一點の私心を挾まず、一切の情實を斥けて、眞に國防上の最緊要とする所に着目し、海軍にして眞に擴張を要するものならば、陸軍側の提議に耳を假さずして、所謂最少限度の擴張に止むると同時に、一方海軍改良論者の唱ふるが如くに大斧鉞を揮ふて、積年の弊竇を芟除し冗員を削減するの擧に出でなば四億の經費は其二三分方を減ずるを得べく候、而かも之に因て國民も當局の誠意を諒として、之れが爲の增稅を苦しいながらも、尙決してこれを納むるに吝ならざるべく候、要は國民をして國民としての義務觀念を起さしむるに非ざれば今日の場合眞正の意味に於ける國防の充實は決して期待するを得ずと存候。（驚生）

俳句

●蚊帳（十句）　多田千春

草臥た足の長さや蚊帳の外
忍び足して冠せけり枕蚊帳
蚊に一夜喘れてからの蚊帳哉
繕宅や更けて蚊帳つる釘の音
一人寐は氣易ものよ蚊帳の月
天井は杉の正目や絽蚊帳
朝風に蚊帳恥かしく外しけり
明日の用話すや蚊帳の內と外
寐顏では無つたにツイ初蚊帳
誂らへた樣な月夜や初蚊帳

文苑

和見呈志水道本居士形山禪師之韻　加藤傷游

原韻
一笑相逢自有眞。江湖到處鷺鷗親。士心高潔如秋水。洗却紛々世俗塵。

洗却紛々世俗塵。鷺鷗正論鷺鷗親。意中士見誰家士。爆漫如花寫出眞。

和見次形山禪師韻志水道本居士賦

原韻
快舌爽胸心見眞。殷勤提唱道閑親。三千界裡無智識。不二門頭絕法塵。

同人
不二門頭絕法塵。一途道念佛陀親。結伽趺座非他事。收氣丹田觀太眞。

外事一束

△上院　否認權制限法案十七名の多數を以て上院を通過す自由黨院內總理ジョン、モーレー卿議場を威嚇し曰若し本案破れなば貴族創設の擧に出でんと△此言に保守黨首領ローズベリー卿屈し此際該案の通過を希望すと二院政治の禍根は英國先に之を檢し之に處し之を通過せり主として新英皇の立憲的態度此危機に臨み煥發したるに因る民主的傾向は政治界の世界的大勢

△宗怖る勿れ予算は下院の專斷に決すも常識國民某國の如き非常識官僚無

△東郷大將吾人愛し如く見に歡迎軍に疲勞せり西米墨酷加餐自重して還れ

△乃木大將獨陸軍省の主賓として招待され席上陸軍諸官衙の整備を稱賛す

△英國議員歲費なし下院新に百名の多數にて一人四千圓給與に決す此點日本先輩也、在野黨首領バルフォア惡戰苦闘敗余の身を獨逸溫泉に靜養す

△倫敦海員同盟罷業の爲食料品缺乏し卸問屋取引中止し小賣は三四日中に賣切れん一千の兵士は秩序維持の爲派遣せられ窮民蜂起の憂あり御者三萬は解決したるも一萬二千の舒人足荷揚人夫罷業依然損失莫大に及ばん

△淡落日本人會名士招待の議決し島田新渡邊及記者三名不日渡航講演せん

△棉花に水泥混し輸出の障害たり上諭を發し檢査法並に罰則を制定せしむ

△南滿鐵道沿線日本守備兵支那人を襲擊し數二十五名に及ぶ小池總領事を左右に托し交涉に應せずと漢字新聞奉天電報也とし掲ぐ眞僞不可保

△黑龍江鐵道工夫賭般の給與不充分也とし暴動し砲兵一中隊急派せらる

雜錄

宗教家の虚榮心

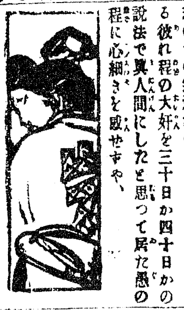
京城　權右衞門投

强慾無殘なりし大阪の人木村權右衞門曾つて兇漢の爲めに創傷を蒙りしことあり、當時世人は之れを語るに兇漢の惡む可きを以てせずして却つて權右衞門君の積惡？を說くに詳かに其負傷を目して天意とし彼れに逼つて其の改悛を强ひき、就中新聞紙及宗教家の多くに於て殊に努めたり、予は當時窃に此の所謂先覺者諸子の餘りに人心の機微に通せざる美擧の成功を危みたりき。即ち彼れ權右衞門君の心は決して此の好意ある美擧に傾くこと無る可と、然るに幾何もなく新聞紙は木村君か天滿敎會の誰れとやら云ふ婦人の傳道に歸きて飜然として基督に歸したるを報じ來りぬ、予恐らく傳ふるが如くんば寔に權右衞門君の幸のみならず又我社會の幸福なり、予の先見の當らざるは直ちに之れ吾人の短慮を語るものにして徒らに先覺の短慮を嗤ひたるは偶々以て自身の修養の淺薄なりしを嗤笑せられたるものと愧ぢ且つ恥まざる可らずと、然れども衷心私に一片の疑ひなきにしもあらざりき、即ち丹は予の先見の果して誤れりしか、或は權右衞門君が四圍の聖者の──換言すれば他人に善事を强ふるに勇なる先覺者の壓迫に堪ね得ずして其の壓迫より脫るゝが爲めに最も伶俐なる措置に出でたるには非ずやと、何を以て之れを言ふか他なし爾後の木村君は昔日の權右衞門君に非ずして較其行爲を改善し來れりと云ふに徹してなり。

大奸一步を囘らせば此れ大聖、權右君は大奸也異に一朝にして其の奸を悔ひて聖者の道に入りしならば其道を行ふに絕對ならざる可らず、然るに彼れの道を行ふは相對的なり比較的なり即ち彼れは斯くても算盤より放れ能はざるなり、此れ予が權右君の改悛を危みし所以なりき、

果然頃日に至りて權右君は其の馬脚を斗盤によりて現はしたりと、此れこそ果然なり、强ひられたる悔悟‼悔悟は促す可くして强ゆべきものにあらず況んや成したることの善惡を識別せざるものに對してをや、

現の世の宗敎家のオッチョコチョイなる彼れ程の大奸を三十日か四十日かの說法で眞人間にしたと思つて居た愚の程に心細きを感せずや、



召使れ初

第百三十回　黑法師

「勿論御事、まづ積つても御覽じませ、又兄にては無い、假し眞實の兄に致せ、れ築地乘り越ね、外出しやうとした大罪に影響ござりませぬ、御當家に於かせられては、御召使ひ御制敗こう爲させられ、他家御家人にた手をれ障なさることが叶ひませぬ、れ察は不義の罪人それに由て御制敗なさせらるゝに、些どの不思議あるまじき歟と憚りながら存じ居るでござります」と相生は冷笑ふやうに云ふ

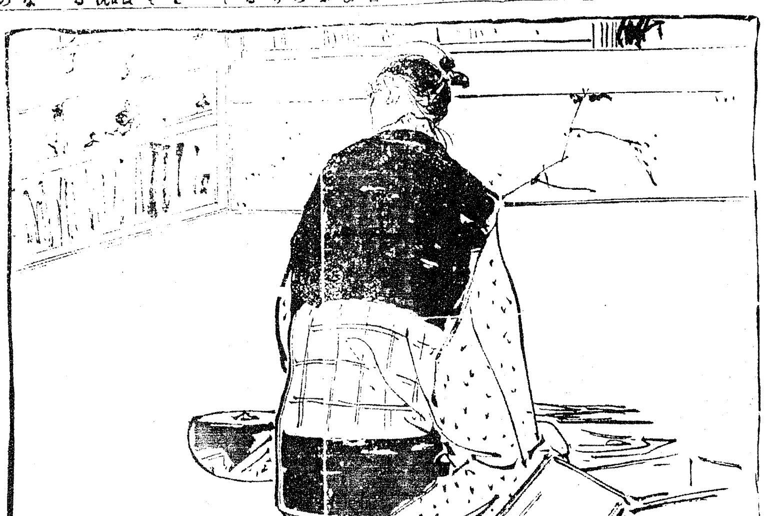
「然し兄御前御詮義、れ察れ疑ひの上に、深い關係とござりまするで、假令他樣御家來あらせられるも、禮を以て御尋ねあらせられるに、少の構ひあるまじく推量、父御御病氣れ問合せと、同じ義理、同じ仔細、万一表立ちての御尋ねに御遠慮あらば、私れ察を同道微行參つても宜いでござります」と若江は極めて熱心なりき

「はゝ」と相生は堪ね遣らぬ樣に笑つて「あなたれ手づから、この御詮議なさせられるでござりますかな」

「これも、れ上へ御奉公の中でござります」

「重きれ役を勤めさせる、あなた樣、高が、れ遣どのれ召使の詮義について態々他樣れ屋敷へれ越しなさるでござりまするかな天地の間に容れられ難き罪人と同道、のめ／＼他樣れ屋敷へれ越しなさるでござりまするかな」

「詮義れ役目を蒙る上、それほどの事は當然と思ひござります」



「さて御執心、さて御忠義、人は皆な斯うありたいでござります、然し此事私一存では爲り難ねまするで、一應澤野樣へれ尋ね申すでござります」と相生は道理らしく「察は幸福ぢや、若江れ出でなくば、直にも罪渦に陷せらるゝ處、寅々そなた兄御れ尋ね、篤と事情をれ問ひ合せ召しとあらするわの」

「恐れながら私も、兄に逢ふて尋ねたいことでござります」

「怖やの／＼、うなた女の身を以て、現在兄御の舌を脫かう心ぢやの」

「舌を脫くでござりませぬ、舌の數を撿べ見るでござります」

席に陪りたる一人の女中は、此端の事情を報告し、兼て助置訪問の可否を問ふべく、澤野の部屋へ急ぎ行きぬ、澤野もし此事に不同意ならば、若江は更に國尾の意見を聞かんとの心なりき、やがて女中は歸り來りて澤野の返答を復命す若江どの仰せ、御有理ござりまするが、深き疑ひ受けてあるれ察同道の儀相爲らぬ、又若江どの重き御身柄を以て、輕々しく御出向き宜しからねば、れ使番の中、誰にても人撰、御遣はしの儀然るべしとの御口上、最もこれは表立ちてのた使と申すでもなければ、松田殿れ小屋に付き、穩かに仔細承はり來るやうとの仰せ付けでござりました」澤野の命令は鶴の一聲なり、若江相生協議の上、れ使番れ近といふを撰みて、毛利甲斐守れ小屋へ遣はしぬ、其の使者の歸り來るまで、れ察の詮議は中止なり、れ察は再び長屋の一室に閉ぢ籠められて、多くの女中に監視さるゝ身となりつ

제757호 1911. 8. 16.

東京電報

▲桂首相の伏奏 桂首相は昨十四日午前十一時三十分參内 天皇陛下に拜謁何事か長時間伏奏する處ありたり

▲定期賣買停止 農商務省は米價暴騰抑壓策として大阪兵庫名古屋、桑名、高岡、金澤の各地米穀取引所に對し十九の兩日米穀賣買停止の命令を發したり

▲米價値下策 農商務省は米價値下策として各地取引所へ米穀の定期賣買を禁止し同時に鐵道院に對し米穀運賃引下を交渉中なり

▲内閣交迭何時乎 [illegible]噂に依れば刻々に迫りつゝあり愈々内閣交迭の時期として注意を要するは九月上旬なり

▲乃木伯林着 獨逸滯在中なりし乃木大將は十五日伯林着の筈なり

▲國民黨員參内 目下上京中なる國民黨[illegible]子は十四日參内 天機を奉伺し退出後川村大官を官邸に訪問したり

▲大成丸歸着期 商船學校練習船大成丸は練習生九十四名を搭乘し世界一週中なりしが來る廿二日品川灣歸着の豫定なる旨昨十四日其筋に無線電信ありたり

▲義勇艦隊の造艦 海事協會にては帝國義勇艦隊第三號艦を百三十五萬圓にて川崎造船所に建造すべく注文す

▲國民黨の遊說 國民黨にては今十五日より向ふ二週間の豫定を以て京都地方を始め各地の遊說を開始せり

▲東宮殿下還啓 皇太子殿下は昨十四日午後一時五十分日光田母澤御發同五時三十五分上野着文武高等官百餘名の歡迎を受けられ還啓せられたり

雜報

●朝鮮官鹽 最近狀況と將來

朱安及廣梁灣に於ける天日製鹽本年度の狀況は廣梁灣に於ける工事がペスト流行のため滿國苦力の從業を見ざりし結果非常に工程に遲延を來したると降雨の頻繁なりしため製鹽高僅少なりしとに依りて豫定の製造額を見ざりしも八月十日よりの成績は兩所に於て三百七十九萬一千斤なりし尚四十五年以下の製造豫定額は四十五年度七千三百萬斤價格四十萬二千圓四十六年度一億二百萬斤五千五萬六十圓四十七年度一億千八百斤六十四萬五千圓四十八年以降は年々一億二千四百萬斤六十七萬六十圓宛の割合なりと云ふ

●船舶法の將來

從來[illegible]海の取締法は韓國政府が[illegible]總督府規定並に日本船[illegible]れ相互錯雜し居れる[illegible]差支ひを生じ同時に[illegible]當局者の不便不利[illegible]は海運業の發展を沮[illegible]らず爲めに總督府に[illegible]が缺點を補はんとし[illegible]て立案中なりし[illegible]局に於て審議中と[illegible]稿したるを以て早速法[illegible]れが發布を見るに至[illegible]の精神は或る程度迄は[illegible]墨守するの取扱上便[illegible]原則としては日本航[illegible]法を參酌採用したるも[illegible]施行法の如きは朝鮮在[illegible]採用せるが要するに朝[illegible]海岸線長く島嶼多く[illegible]て如何に陸上の機關[illegible]人達は到底不可能たれ[illegible]に俟つあるにあらず[illegible]し得べからず、同時に[illegible]釜山、元山を起點とす[illegible]しは到底其用を充す能はず、より以上近海の航路に向かつて之れが助長を計らざるべからず舶船の國籍如何は平素に在つては當業者は甚だしき利害を感ずるなく、從つて從來に在つては在住母國人の支那船を買入れ又は貸借して航海に從事するもの尠なからざりしが先般端しなく滿洲ペスト發生に際し差押へ又航路中止の厄に際會し、親しく國籍の大切なるべきを實驗したる結果爾來之が登記變更を其筋に向かつて申請するもの尠なからず、此の場合日本船舶法案に依らんか一々本國に歸來し、其の手數を經ざる可らざるが、若し斯くの如くせんか此の際紛なからざる手數と時間を消費せざるべからざる爲其迷惑不便尠なからず當局者は豫め其の之れあるを察し船色の塗替へ乃至は檣の色替等便宜の方法に依り國籍證明の手段を取らんかに就き研究中なりと當局の或人は語れり

●李王職冗員淘汰

李王職の事務は從來至て閑散にして尸位素餐の譏を受くるもの少なからざるが今回の總督府官制改正と共に職制改正され冗員の淘汰を見るに至るべしと云ふ

●麻布販路の調査

農商工部商工課にては京都市商品陳列館長丹羽圭介氏に對し朝鮮產麻布の販路調査を囑托したるが同氏は十七日出發慶北、安東、忠南、韓山の各麻布生產地に出張すべしと云ふ因みに本年京都博覽會に出品したる朝鮮產麻布を同陳列所に依托し精製したるに今般丹羽氏持參し來りし由なるが潔白の上著色模樣を置きしものは非常の珍品に見へ優に越後布の上位にあるべしとの事なり

●定例長官會議

十五日午前八時半より總督府に於て定例長官會議を開き山縣政務總監、倉富、石塚、荒井、宇佐美、小松、菊池の各部長官、明石總長、大屋、池田の兩局長官、兒玉局長、秋山參事官列席政務の打合せを爲し同十一時三十分散會したり

●韓銀の改名

韓國銀行は愈々十五日より朝鮮銀行と改名したり

●朝鮮教育會開會

朝鮮教育會にては十六日午後八時より京城日本人商業會議所内に於て教育俱樂部を開會する筈なるが最初會員の五分間講話あり次て愛國婦人會寄附の活動寫眞及び幻燈蓄音器琵琶等の餘興ある由

●朝鮮銀行營業報告(一)

十六日韓國銀行株主總會席上に於ける市原總裁の四十四年上半季に於ける營業狀況報告左の如し

朝鮮に於ける當期金融の大体と當銀行事務の梗概とを記述せんに季初滿洲に惡疫猖獗を極めたるため朝鮮大豆の輸移出を促進し又北鮮特產の明太魚は價格高騰なるため其荷動見るべきものありたるも結氷時期なるため一般取引は沈靜にして鮮人間舊節季決濟資金の需要もさしたる影響なく市況頗る閑散なりき氷雪融解の交に及び客臘來出廻り勝なりし米穀は出廻り槪して活潑にして從て綿布其他輸移入品の賣行亦良好なりしが金融は小緊を呈したり四月以降恩賜公債の當行に賣却せらるゝもの多く一方に湖南の鐵道築造道路の改修及鑛道の敷設等に關する總督府豫算の確定と各道に於ける授產事業の計畫は人氣を引立て事業經營其他のため土地の買收せらるゝもの續々增加し且つ北方に於ける產金採掘の好況は市場に活氣を與へ季末に近くに及びては穀物の内地輸入關稅の改正と景氣を與へたる穀物の見越買は穀類の出廻を促し且又夏物其の他雜貨類需要の增加と諸工事の進行とは幾分資金の需要を喚起し播秧期に於ける降雨の適順と豐作の豐穰とは民心に好果を與へたり然れども國庫歲出金は拂出勝にして且つ恩賜公債賣却土地放買其他によりて民間に撒布せられたる資金潤澤のため金融は著しき緊縮を見ることなくして當期を了れり更に貿易の大勢を察するに輸移出品は主位を占むる米穀秋豐作の後を享け而かも價格漸騰しの勢を示したるを以て輸移出甚しく增加し大豆も亦滿洲惡疫の影響を受け頗に增額を示し牛皮、剝皮法の改良と共に需要殖加して生牛の輸移出亦之に亞ぎ當年季輸移出總額は千六十七萬餘圓に及へり而して輸移入の狀況を觀るに前段述ふるが如く一般民衆の購買力增加したるを以て綿絲布綿糸葛布石油砂糖紙其他雜貨類の輸移入を增進し且つ工事材料等も相當多額に上りたるを以て綿布繩叺紙卷煙草鹹魚等輸入の減退を來したるものあるも本季の輸移入總額は實に二千四百八十六萬三千餘圓に上れり而して前年の同季に比すれば輸移出に於て二百十三萬六千餘圓輸移入に於て八百七十一萬七千餘圓の增額にして以て生產力の發達と一般需要力の增大を知るに足るべし事情上記の如くなるを以て當期金融は初閑散にして中頃繁忙を示し季末に及んで緩漫に復したるものと云ふを得へし當行は此理にありて内外財界の狀勢に着目し特に母國金融との關係に注意し營業の方針を誤らざらんことを努めたり

銀行券に付きて一言せんに例年上半季に於ける發行高は市況閑散なるため概ね前年下半季に比し多少減少するに拘らず當半季は昨秋に於ける穀類の豐穰恩賜公債の賣却其他政府事業の進捗等の爲め却て其發行高を增加し當期末に於ける發行高は二千二百四萬七千圓に達せり之を前期末の發行高に比し百八十八萬三千百圓の增額にして更に昨年上半季末の發行高に比すれば實に八百七十九萬二千圓を增加せり一圓券の需要多大なるは勿論なるが特に近來十圓券の發行高は前期末に比し百十萬五千圓の增加なりしと蓋し經濟界の發展に伴ひ漸次取引の增大せるを示せるものにして大額券の需要喚起の兆候ならん乎反之十錢二十錢五十錢等の小額券は開業以來更に之を發行せず且つ本年三月朝鮮總督府の告示を以て明年三月限り通用を禁止せられたるに依り當期末發行高は僅に一萬千六百圓に過ぎざるなり而して現今各種銀行券は何等の障害なく各地共其流通極めて圓滑なり

●京城民團 内地人實査 戸口

近京城民團に於て調査したる京城居住者の府縣別戸口數を順位に依つて掲ぐれば左の如し

府縣名	戸數	人口 男	女	計
山口	一、〇九五	一、九九三	二、〇三五	四、〇二八
東京	七九五	一、五六四	一、三五四	二、九一八
長崎	七九〇	一、四四六	一、四五三	二、八九九
福岡	七四一	一、六三一	一、四四八	三、〇七九
廣島	六四四	一、一二二	一、〇二六	二、一四八
大分	六四二	一、三四〇	一、〇五四	二、三九四
熊本	六〇七	一、一五四	一、〇三三	二、一八七
大阪	五五〇	一、〇〇一	八七二	一、八七三
佐賀	四八〇	九三二	八〇一	一、七三三
鹿兒島	四二九	七六七	六一六	一、三八三
兵庫	四〇三	七一四	五七五	一、二八九
岡山	三九二	七一四	五三二	一、二四六
愛知	三二〇	四四三	三八六	八二九
愛媛	二七〇	四七三	四三〇	九〇三
香川	二六〇	三六七	三九四	七六一
京都	二五七	四八四	四〇二	八八六
島根	二三五	四二九	三九八	八二七
三重	二二〇	四三〇	三四三	七七三
靜岡	一九三	三五二	二六三	六一五
福井	一八九	三六二	三一一	六七三
長野	一八五	二四六	三四九	五九五
石川	一八四	三七〇	二九三	六六三
滋賀	一六七	三一九	二二六	五四五
福島	一六六	二九二	二二五	五一七
新潟	一六三	三一五	二六六	五八一
岐阜	一六〇	三〇三	二二三	五二六
富山	一五三	二七一	二六一	五三二
神奈川	一五二	三二八	二二八	五五六
千葉	一三六	二三五	一九七	四三二
德島	一三六	二二三	二〇二	四二五
鳥取	一三三	二〇四	一七八	三八二
宮城	一二八	二四八	一七九	四二七
和歌山	一一九	二一三	一六八	三八一
茨城	一一一	二一五	一五六	三七一
北海道	九九	一八四	一六二	三四六
山形	九七	一五九	一五四	三一三
高知	九〇	一四五	一三三	二七八
奈良	八八	一六六	一〇七	二七三

●京釜長距離電話工事

本年度遞信局の大事業たる京釜長距離電話架設工事は愈々十六日より京城及釜山の兩局を基點として京城郵便局より村上技手監督の任に當り逐日數十人の人夫を使役し池田長官の希望通り本年十月初旬までに架設を了し同月中旬より開通を見るに至るべしと因に同線架設後の使用料金は今尚は未定なるも京釜鎭間の料金を參酌て一通話一圓內外なるべしと

●總督邸晚餐會

山縣政務總監は十五日午後七時より總督官邸に目下滯京中なる清國政府財政顧問ブレトン氏及末廣博士岡部參事官京都商品陳列所長丹羽圭介氏を主賓に大屋長官小松局長秋山參事官見玉局長太田參事官菊池長官鈴木局長を陪賓として招待し晚餐會を開く筈

●政務總監視察

山縣政務總監は十四日午後四時より宇佐美內務部長、兒玉會計局長高橋京城府尹代理を隨へ京城府恩賜授產場を視察し同六時半歸邸したり

●清國財務顧問來京

清國財務顧問ブレトン氏は昨十四日夜日本を經て南大門驛着入京し今明兩日當地視察の上安東縣を經て歸任すべしと

●京のプ氏旅程 目下滯京中なるブレトン氏の旅程を聞くに十五日午前は山縣政務總監訪問午後景福宮參觀十六日昌德宮參觀十七日當地發安東縣へ向ふ由なりと

●山縣夫人の着京

去る十二日東京を出發し渡鮮の途に就かれたる山縣政務總監夫人及令息家令の一行は十五日午後八時南大門驛着入京の筈右に付藤波通譯官は永登浦迄出迎したり

●兒玉局長東上期

兒玉會計局長は避暑のため來る廿五日頃東上すべしと云ふ

●末廣博士動靜

滯京中の末廣博士は十六日午前九時十分發平壤に赴き同方面視察の上再入京の上廿日仁川より山東丸にて大連に至りハルピン迄赴く由

●工事規程審査會 十五日午前八時より遞信局工務課に於て各技師技術員參集工事規程の審査を爲したり

●米穀斤量制反對

仁川穀物協會にては過回大坂朝鮮穀物貿易商組合及兵庫朝鮮穀物商組合等より照會に係る朝鮮米穀斤量制十月一日より施行の件に付き反對の意見を仁川商業會議所に提出せり其要項左の如し

一、朝鮮穀物受渡しを本年十月一日より斤量建に改定の件は時機尚早しと認め反對す

二、朝鮮穀物の受渡をなす場合は總て百分の三を歩引なすの件は絕對に否認す

理由

之は單に荷受人の利益のみを圖り荷出人の計算を度外視したる不法の申込みなるを以て絕對に之を認むるを得ず

●藥師川中佐談片

京畿道警務部長藥師川憲兵中佐は忠清南道公州府に於ける警察事務視察の爲め去る九日公州に赴き十三日歸任したるが其の談に曰く公州に到着したる時は地方の憲兵隊長及び警察署長の會議ありしを以て之れが地方に於ける狀態を聽取するを得大に得るところあり而して公州は近年大に發達し就中衛生の如きは殆んど遺憾なく行屆き朝鮮名物の蠅の如きは極めて少數なり次に水道の設備は未だなきも井水純良にして一般の飲料に適し而も不足を來すが如きことなし又塵芥糞尿の處分は警察に於てなし居るも行く〱は京城の例に倣ひ個人に請負はしむべき計畫あり更に一般の風紀は從來の京城の如く市中到る所小料理店散在し居るを以て絕對的善良といふ能はざらんも藝妓酌婦を通じて一週に一回宛身体檢査を行ひ居るを以て比較的害毒の及ぼすところ少なかるべし尙他に消防機關の如きも相當に整備せるが就中矚目に値すべきものは道路の完全せるにあり鳥致院に通ずる道路は過日の洪水のため所々破壞せるが道は極めて遺憾にして之れが復舊工事には多額の費用を要するべし要するに同地方は官民能く融和し一致協同の精神に富み居るは喜ぶべきことなり云々

●群山特信（八月十三日） 受水生

◎當港は毎年盛夏の候と雖も日中僅に四五時間暑熱を感じ午後四時頃よりは涼風颯々として吹き夜分は團扇使ふことさへ罕なりしに本年は如何なる故か非常の暑氣で此一週間餘りと云ふものは毎日寒暖計九十五六度に上り實に近來になき猛烈なる暑氣であるされば此頃は吾々強健のものでさへ一身を持て餘して居るのに平生虛弱の人などは一入こたへているであろうと思はれる。

◎新樣に土曜に入り照込申分なき爲め當地方は一般に稻秧發育申分なく先づ以て前年以上の大豐作との見込なれば此酷暑の中にも拘はらず人氣引立ち一蒸の來る以て春をトすべしと云ふ樣な感がある。

◎現時の當港は內地人のみにても早や四千餘人に達せる大市街となりしに係らず未だ鎭護神社建立なく（小さな金比羅神社あれど）吾々は常に以て遺憾に思ふて居た處が今回當港の有志者發起となり愈大神宮の社殿建立を計畫し廣く一般に寄附金を募集することゝなつた寔に時機に投じたる美擧にて人心に新なる感化を與へ有形無形當港の風教上に及す影響は極めて大なるものであらうと思ふ。

◎群山近海の漁業は年々發達して今や出漁船の數百隻に上り其一年の漁獲高の如きは總計數十萬圓の額に達し而して前途尚益々增加の傾向があり實に漁業は當地方に於て穀に次げる大なる產出物である之れを國家的經濟上の見る總督府は宜しく相當の方法を講じて奬勵保護するの必要があると思ふ之れに於て先頃當局者が蝟島沖於青島沖及竹島沖の三大漁場根據地の漁船繫留場に小漁港を築設する件に關し今回新に水產技手を派し審に三島嶼の現狀を調査し以て之れが準備に着手すべしと云へば將來一般漁民は一朝暴風雨の困難に遭遇することあるも安全避難するを得て大に危險の度を減ずるに至る譯である因に前記三島嶼の內蝟島最も船着悪しく爲に暴風雨の際には漁船の災難に罹るもの最も多きを以て不取敢先づ蝟島より着手するものゝ如く而して此等三島嶼へは孰れも相當の防波堤を設くる計畫なりと云ふ（續く）

●太神宮臨時祭

京城民團にては來る廿九日の併合紀念日に倭城臺に於ける太神宮の臨時祭を舉行する由なり

●阿部參事官の巡歷 滯京中の阿部法制局參事官は十五日青木山林課書記官と同行工業傳習所及山林課苗圃等を巡視せりと云ふ

●原島技師の歸任 賜暇歸朝中なりし農商工部高產課の原島技師は十四日夜歸任したり

●小田事務官の出張 學務局の小田事務官は去る十二日付を以て東京、大阪、沖繩の各府縣及臺灣へ出張を命ぜられたるが主として臺灣沖繩に於ける土人教育の狀況視察のためなりと云ふ

公人私人

▲吉川岩喜（平壤鑛業所業務課長）十四日山本旅館へ

▲荻谷敬次（扶桑銀行取締役）同浦尾

▲飯田寛三（東亞セメント會社營業部長）同上

▲鄭雲復（每日申報主筆）同東上

仁川港出入船舶

△諏訪明丸 十六日大坂より入港

△大有丸 同 大坂へ向出港

△[illegible]丸 同 大阪へ向出港

△蒼龍丸 同 芝罘へ向出港

●相場電報

南山町三丁目 菅野商店報

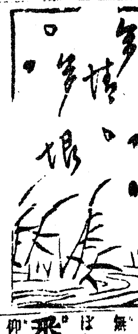
	(十四日前場)	(十四日後場)
▲[illegible] 當付	一〇〇、七〇	一〇〇、一〇
▲[illegible] 引付	一〇〇、七五	一〇〇、四〇
▲[illegible] 當付	七〇、〇〇	七二、〇〇
▲[illegible] 引付	七四、四〇	七四、二〇
▲[illegible] 引付	出來不申	出來不申

▲治外法權▼

過日來秋會に於て末廣博士が述べた如く半島來遊の外人等が、何となしに鮮人に同情を寄せ其結果在半島日本官民の對鮮人行爲に關し、有る事、無い事、惡評を試み、延いて我の半島經營を傷けんとするの傾向を示しつゝあることは事實である▲半島來遊の外人、其數に於ては知れたものだ、併し彼等が、日本、朝鮮人を壓迫するとか、何とか、勝手な事を書きソレを本國の新聞雜誌等に掲ぐるときは惡事千里を走るの譬の如く、忽ちに全世界へ擴がるのである▲由來半島來遊の外人とて善人もあれば惡人もある、併し態々世界漫遊をする程の人々なれば、普通は別として彼等の中に、馬鹿はソンナに多くない筈だ▲由來馬鹿でない人間は、所謂常識を有するのであつて、白きを黑しと云ひ、黑きを白しと云ふ事は殊更でなければ出來ぬ筈だ、サテ茲迄考へて見ると來遊外人等が我を誣ゆるに就ては何かの原因がなからねばならぬ▲漫遊外人が安東縣若くは下關方面から入鮮する、之を知つた憲兵の探偵等はヨキ島御座んなれと、船中乃至ホテルの中まで尾行をする、思ふに此尾行や憲探側に於ては深き意味あるに非ず、而かも被尾行の外人の側に在ては大に不愉快に感ずる▲近き一例を擧げんに、去る五月中南米駐在の佛國公使某が京城に遊んだ、彼れ京城に滯在中は總督邸に於て歡待を受けた、併し其京義京釜線中に在る間は所謂憲探に附廻され非常の不愉快を感じたとは彼の口から出た實話だ▲些細な事の樣だが、今や憲探の尾行は多く來遊外人の感情を害す、斯くして來遊外人等は不愉快の觀念を抱いて半島を去り、ソウして本國の新聞雜誌等に因つて犬糞的に我の惡評を試む▲記者思ふに來遊外人とて鬼でもなければ蛇でもない、されば彼我の間に意志の疏通が出來れば、彼等とて斯々犬糞的の行動には出まい▲聞く渡邊、小宮及び佛國總領事等の盡力に因つて、日佛協會なるもの近々此地に生ると、思ふにこれ日佛人意志の疏通に於て必要なる機關だ、併し記者を以てすれば斯かる機關は日佛と狹めず、須らく汎く凡てを網羅し、合せて來遊外人等との意志の疏通機關となさば其效の大なる蓋し思半ばに過るべきだ。

▲京城手形交換高▼

	十四日	十五日
▲[illegible]	[illegible]	[illegible]
▲[illegible]	[illegible]	[illegible]
▲[illegible]	[illegible]	[illegible]
▲[illegible]	[illegible]	[illegible]



京城藝妓の半生 花月樓ぼたん(一)

當地開闢以來の記錄破 三箇年半の契約で前借金二千圓と云ふ

花月樓のぼたん彼れには定めし面白い履歴もあるべしかと探つて試たが何分にも土地に日が淺いので大した深間も無い如だ、尤も有つた所で腹も立たない代りには無くつても氣の毒とは思はないのである、彼れは山口縣岩國町大字岩國四百九番戸佐々木鶴の長女で本名をきく代と云つて當年二十歳である、岩國と云へば錦帶橋は有名な吉香神社の鎭り座す所椎尾神社の氏子と生れて錦川の水で產湯を使つた姉さんだ、餘り馬鹿にしていゝワカアさんなである、彼れに妹あり、と何も珍らし相に譬く譯ではないが兎に角彼れに妹あり彼れを同じく女で而して彼れと同じく藝妓であつて更らに而して彼れより二歳下の十八歳である、名はれみつさんと云ひ同しく花月の二階で其の名を一枝と呼ばれて居る怪しからない事であるが此れも實父が不心得で先祖代々仕來つた料理屋だけ致して居れば宜しいのに勝負事が好きとあつて此の妓達が生れると直ぐに生長後れ金錢に換る如にと度胸を定めて其の方針の下に養育された云はゞ兌換娘と云ふのだ、其所で其の丹精に天も感應ましく〳〵て妹の一枝の方ですら千五百圓の身附である、夫れは先づ後の話として今を去ること幾歲なりしか年代記を繙る程の大事件でもなければ此所には唯幼少の時、と丈で御容赦を頂くが扨其の幼少の時なら姉さんのきく代は廣島の平太券から舞妓で出て居た然るに同地に於ける檢番併合と共に篠原券に移つたが栴檀は嫩葉より香ばしくツバメ香水は一溢にして七日間其の芳香を保つとか今や後年京城中檢よりぼたんと名乘つて花月の二階から南山の月を眺めて暑い夏を凉しく暮さうてね程の子なれば篠原券にては常に三番と下つたことが無い全盛であつた、其の全盛であつたぼたんが何故京城では二十番の外へ蹴落されてるのかと仰云るか、貴方でもないワねぇ薩摩芋も南瓜も土地に合はなきや駄目でさアとは憎まれ口として實は未だ大に名が賣れないにしても、エ名が賣れない——にしては買つた人が澤山あると仰云るか何に比較しての澤山かしら、閑話は休題として全く未だ昔く粹士間に其の名を知られない夫れが爲めに席順も上らないのであるが京城如何に狹しと雖も日本人五萬人中豈に久しく一人の此の名馬を見出すもの無からうやだ、又しても閑話は休題として廣島では某陸軍大佐にも贔負になり乾魚問屋の岩田宗助君にも贔負になつた相だ、以て其の素養の凡ならざるを知るべしであらう(續く)

● 絞殺未遂犯人逮捕 ▽ド商會强盜嫌疑者

山口縣大島郡小松表代村百十九番地當時京城吉野町三番戸稻田紋造(三一)は毆打致死恐喝取財其他前科六犯の曲物にて其筋の注意人物なりしが曩きに大和町一丁目ドラック商會に於ける强盜嫌疑犯として捕れ取調中證據薄弱にて放免せられ其の後角部署刑事踏氏注意中の處本月六日東大門外滴凉里に於て以前内縁の妻即ち强盜嫌疑犯の關係人として取調べられたる樋上しま(二七)が紋遂に愛想付かしたるより絞殺せんとして其の意を果さず逃亡したるを探知したる長野佐藤岸川副の四刑事諸所に手を分け捜査逮捕の上司法係に引渡し目下殺人未遂罪として取調中

● 神命に因つて人殺

京畿道朔寧郡寅日面鶴山里一統一戸金在道(三五)は精神に異狀を生じ神樣より人を殺せと命せられしと稱して五人を斬殺して其筋に捕はれ檢事局に送られ兩角檢事の手にて目下取調中

● 鮮人富豪强盜事件

一時鮮人側の耳目を引きたる富豪金佐鎭安承緖等の强盜事件第一審第二審共有罪となり不服として上告せし事件は十四日午前九時より高等法院刑事部法廷に於て渡邊法院長裁判長となり岩野牧山石川鈴木の四判事陪席膳檢事立會の下に公判開廷せられ上告代理人として辯護士木尾虎之助及岩本英夫氏等出廷上告代理人は上告趣意に基き上告の理由を數點に分ち明白に辯論し膳檢事は之れに對して駁し上告棄却の論告あり來る二十一日言渡す可しと閉廷したり

● 亂暴な若女房

龍山新木鐵里一統哥香娘(二八)は十四日午後五時明町十三番戸黒川十兵衛ツデ(二七)に右手指二本庖丁にて斬られたるより直ちに龍山署に訴へ出でたるより能く取調べたる處原因は香娘が前記黒川方へ林檎買に行き林檎の價額る高く結局直段の押問答の口論より遂には喧嘩となりて思はず庖丁にて香娘を傷けしものにて他意あるにあらざればツデより金一圓を治療代として香娘に渡し將來を戒め說諭せられて示談となりて即時放還せらる

● 水兵の無錢遊興

原籍廣島縣廣島市鯨町一丁目二十九番地平民廣田幸次(二三)は吳海兵團第三分隊海軍一等水兵にして勳八等の身なるに放蕩の爲め遂に身を持崩し吳海兵團を脫走し行衛を晦し居りしに昨十五日午前一時頃仁川花町一丁目飲食店中村よし方に登樓し同三時半頃迄で飲食し酒肴料二圓七十錢を請求せられしも元より無一文なりしかばゴタスタして居る處を其筋に取押られ目下憲兵隊仁川分遣所に於て取調中

● 仁川のボヤ二件

昨日午前一時頃仁川濱町仁川製鹽所の煙突より發火し火氣噴出して正に危險に瀕しつゝあるを折柄巡回中の高田巡査が發見し家人を呼起し消止めしめたり▲同日午前六時頃仁川府內面外洞二十一統九戸金順文方にてはカンテラに點火のまゝ眠りしより油壺に入火し附近の襤褸に延燒し今や大事に至らんとせしを隣家にて認め大騷ぎして消止む

● 女房を女郎に

京城相生町三十三番戸の三川口又吉内縁の妻岡山縣人岩本きみ(三〇)は本年五月より川口と内縁を結び同棲せしに川口は常に多數の人を集め賭博を爲し其の都度きみに見張りを嚴命し聞かざれば毆打する等暴行屢々にて此の頃娼妓に賣飛す準備中とて南部署に保護願出たりと

● 網巾代金七十錢

龍山万里倉契九統八戸張德俊(五一)は十四日午後五時頃元町四丁目四十番戸煙草卸賣藤本秋五郎(十九)と喧嘩口論の末秋五郎に毆打せられ網巾を破られたるより龍山署へ訴出で結局秋五郎より損害として金七十錢仕拂ふ事になり双方說諭せられて示談となる

● 龍山の膓窒扶斯

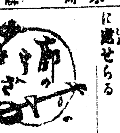
東京本郷區動坂町五十三番地當時龍山漢江通り二丁目五十三番戸大久保番男方駐箚軍經理部經理課雇員江村鴻一(二九)は十四日より膓窒扶斯に罹り同地青坡病院へ收容せらる

● 掻浚ひ窃盜

北海道札幌區字九六當時住所不定淺野千外司(四三)が去る七月上旬賣餅の途次門司棧橋待合所に於て金十一圓入拂服一着外五點(所有者不明)を窃取京城に來り本町一丁目河や時計店にて衣類一枚を窃取したる事件は京城區裁判所に於て懲役二月に處せらる

● 三ケ月

福井縣人當時住所不定山本宮太(二二)の湯屋荒し窃盜犯は懲役三月に處せらる



▲松の梢に風渡りて一入凉しき夕暮時、新町は第一樓の二階より時々聞ゆる三味線の音締も粹な瓜彈きは同樓の婀娜妓若紫が主を待つ間の心意氣、筋を三筋の糸に通はせての思ひ遣りとは知られたり、そも待つ主は誰▲玉家の米駒(二三)は廓内にても有數の美形、殊に笑顔ひ愛嬌は彼妓の特有物、あの妓なれば共に一苦勞がして見たいとは或疫素見客の立話▲樓名は聞き洩らしたるが目下漢城病院に入院中の瀧子と申す妓は長々の病室住居に男戀しさの遣瀬なくてにや、人もあろふに同病院に出入なす朝鮮人にて然かも或家の飯焚ヨボに思ひ附き度々附文なして口說ているとはイヤハヤ見下げはてたる三文女郎▲京城樓の喜代子と申せば至つて無邪氣な邪氣なき妓、なれでも色氣があるかと思へば可笑いとは餘計な御心配ホッチッチろでも本町邊にチャン〳〵と角帶が附いていますとは此妓が平日の惚氣なるが其角帶とは時節柄永贈散白玉金時の百杯も搔き込んだ處で勿々冷めそうにもない熱い中とは其處らの氷屋にての大評判▲滿月樓の蝶々(二三)は流石同樓の流行妓、婀娜たる顏色は三月の花よりも仍濃妖此妓が枕頭に侍る夜の眺や實に一刻千金の價▲日曜樓より過日現れたる姿も花の白雲と申す妓は元高島屋にて全盛をきはめたる妓の化身にて、年はとつても杵柄の昔鍊へし腕前を二度の勤めの裏返し馴染の客もれ初會もへだてのない待遇振り他の妓の及ばぬ味な處があるとの噂▲淸淮樓が花柳界の噂に出ないと云はゝ方があるので一寸披露して見よう、同樓のれ職若吉は關東妓の多い新町では珍らしい大坂妓……好いのが出來たかと云やはりまんの、アホらしい旦那はん方はそんな事を云やはるサカイまだれ若いワてるの樣な婆々がモオそんな氣がれすかいな」と盛んに大坂辯で振るい上げたのが今のれ職、此妓二枚と申さば三味線枕いづれにても御意れ得らるゝ身やサカイ皆樣御贔負にしてやつてれ具れヤス(蕃之助)

● 青木堂に望む

本町一丁目西洋食料品雜貨商として宏壯な店舗を構へて居る青木堂は其營業を擴張すると同時に階上に西洋料理を開業したが構造や設備は既に屢々紹介せられた如だから田舍者が節を數へる樣に馬鹿町嚀は抜きにし其の上の希望を述べよう、庖厨夫も給仕も支那人であるが瀟洒な服裝も佳し更らに庖厨夫は以前某總領事館や目賀田男爵家のコックであつた丈けに料理は手際のものだ、朝は八時から夜二時迄の開店是れも大奮發だが扨余りの繁昌の所爲か遲くなると料理の材料きれと來て折角の客を斷つて居る店主の爲めには何うだか知らぬが彼所迄出掛けて斷られる客の身になつたら隨分だらう何とか工風して來た客に滿足を與へる如にして欲しいものだ(△〇生)

● 演藝だより

▲壽座 大坂二〇加尾半小半の一行十六日の替り狂言は廓のにぎはひ、幽靈の競走、ローストラブ、タヌキの化玉等なりと云ふ▲青山式キネオラマ 當地興行組合與行支配人たりし青山馨は曩きに單獨經營の志を抱きて同組合を脫し興行物探定の爲め東上中なりしが近々キネオラマを旭町歌舞伎座に開場すべしと▲浪花節 浪花家虎榮女一行 浪花節寿け野若子(勝丸 新時鳥 寿釜一本井播八(小寧、祐太千太郎(生駒、戦十銘々傳(愛駒)大岡政談名古屋騒動(虎榮)



花柳評判記(八)

京城 割間齋孝

さつきから喋舌らして頂かうと待ちに待つた甲斐あつて、實にや腹すくうどんかけ十杯げ心地してなどは食地が張り過ぎて居やすが、富士の裾野で兄弟が工藤左衞門を討取つた積りで一節辨じさして頂きます。只今姐さんがたのれ話では京城のれ客樣も大分風向きが暗劒殺の方で誠に早れ氣文字樣な譯でげすが、藝者衆としては烏渡あゝ言ひ度い處でげしようが、れ客としてはまたろう〳〵藝者の氣に入る樣には出來兼ねましよう好かれて合は嫌はれりゃあ猶合はずと言ふのが遊興の定法でげすからこりゃ何れへとも團扇を揚げかねる處でしような、だが遊興と言ふものには持て歸つて與れ、また昔に返ゝ時節がれ客として心得て置く可き意氣があつたら此らめ合せは必とするからとやす。戯客氣醉いた風な事を言ふなど錢瓶の錢をサッと庭へあけてそれを幇間の前へ突出したと申します。れ叱り甘覺悟の前で、古風な通客の噂さを一席伺はして頂きましよう。無心掛けも嬉しいが、このれ客樣のれ氣輪江戸と言つた時分でげす、淺草の藏前にさる金持がありましたが、大門のんかで遊興でれ客と言はれるには少なくとも此流儀でなくちや嘘でげす、失禮は開おねる迄も紀文大盡を向ふに廻した樣な派手な遊興が續いた結果は、隨な申條だが京城のれ客に此旦那の爪のあかでも飲まして遣りてゑ、オッと、れ定まりの倉の屋根が漏ると言ふ仕儀、昔に變る紙子姿のみぢめな風體惜まれ口はきかねゑ筈だつたに、ため息いく〳〵。

で、ありし世の衣紋坂をとぼとぼ辿つて居ると折柄の寒む空にまた時雨した一時雨、はら〳〵と肩ヶ叩くので思はず急ぐ足元に危い草履の鼻緒がプツツリ切れました、そこへ通り掛つたのが昔御贔負に成つた幇間、こうなると藝人でも人情でげす、いきなり傍へ近よつて、れ久しい旦那じや御座いませんか、昔に變るた姿、定めてれ困りで御座いましよう。れ足には合ひますめえが不取敢これをれ召し遊ばせと、いゝた皮の鼻緒のすがつた雪駄を脫いで履かせて、れ塞むかろうと自分の羽織を掛けてあげました、するとその旦那も思ひ掛けぬ親切に落淚して、兎に角にも家まで來てくれと切りに言ふので、幇間も是非なくあとへ續ひて行くと九尺二間のむね割長屋。榮華は昔の夢と消えて一物も止めぬ空家同然、ふちの缺けた火鉢に、鐵瓶が只一ツ主待ち顏に掛けてある計りです、さすがの幇間も思はず淚をのんで控えて居ると、その旦那の曰く今日は思はぬ處で飛んだ厄介に成つて濟まなかつた、昔の乃公ならどうとも出來るのだが御覽の有樣で致し方もないが、せめては今日のれ禮までに役にも立つまいが此鐵瓶を

決算公告

第四期(自明治四十四年一月一日 至明治四十四年六月卅日)

貸借對照表

負債

科目	金額
資本金	一〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇
積立金	七、一五〇、〇〇
銀行券發行高	三、〇四七、〇〇〇、〇〇
政府貸下金	一、二二〇、〇〇〇、〇〇
預り金	六、四三一、三八四、二五
仕拂爲替手形	三七、二八七、三八
他店ヨリ借	九七三、九五六、三一
未拂配當金	四、七〇五、六一
當期純益金	七三、八二九、六一
合計	四〇、七九五、三一三、一六

資産

科目	金額
未拂込資本金	五、〇〇一、九七五、〇〇
政府貸上金	二、〇九四、六七七、〇〇
定期貸	二、三九五、三〇〇、五六
當座貸越	六一八、六二六、一〇
割引手形	五、三五九、五〇五、四七
荷爲替手形	一〇四、五一二、八六
別途貸付金	七、六二二、〇四八、四九
預ケ金	九二五、四七七、四〇
假拂金	二七、八〇七、九四
公債及社債	五、一八七、三八五、五〇
他店ヘ貸	二八一、六〇四、二二
地所建物什器	一、二七九、一七〇、〇四
創業費	八八九、〇一八、五〇
創立費	二〇、〇〇〇、〇〇
外國貨幣及手形	一八、〇二五、〇〇
地金銀	二四二、六九二、六二
金銀有高	八、七二七、四八六、四六
合計	四〇、七九五、三一三、一六

損益勘定

一金七十七萬二千八百四十九圓八十三錢也 當期總益金
一金六十九萬九千二十圓三十二錢也 當期總損金
差引
金七万三千八百二十九圓六十一錢也 當期純益金
金一萬百七十圓三十九錢也 政府補給金
合計金八萬四千圓也
内
金七千圓也 損失補塡準備金
金二千圓也 配當平均準備金
金五千圓也 役員賞與金及交際費
金七萬圓也 配當金(政府持株三萬株ヲ除キ殘餘ノ七萬株ニ對シ年六分ノ割)

右之通ニ候也
明治四十四年八月

朝鮮銀行
總裁 市原盛宏
理事 水越理庸
理事 三島太郎
理事 木村雄次

前記各項ノ調査ヲ遂ゲ其正確ナルコトヲ認ム
監事 濱口吉右衛門
監事 伊藤長次郎

監事濱口吉右衛門伊藤長次郎兩氏ハ本年十月二十九日任期滿了ニ付改撰候處何レモ重任候也